

CAGLIERO 11

N.112 - 2018年4月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

ご 復活は、サレジオ宣教精神のまことの源泉から豊かに飲むようにと私たちを招きます。復活されたキリストが、ジョヴァンニの9歳のときの夢のように、私たちの働く領域を示し続けてくださいますように!

来年、発布100周年を祝う教皇ベネディクト十五世の使徒的書簡「マクシムム・イルド Maximum Illud」は、偉大な諸修道会、特にフランシスコ会、ドミニコ会、イエズス会が宣教に取り組み、担つことを思い起します。特にこの数世紀における彼らの働きとあかしは、実際に多くの国民・民族への福音宣教に豊かなしを刻んでいます。

アルゼンチンへ出発する最初の宣教師たちにドン・ボスコが次のように勧めたのは、偶然ではありません。「よその修道会を愛し、敬い、尊びなさい。そして、いつもほめなさい。」(聖ヨハネ・ボスコが最初の宣教師に与えた勧告)

この言葉は今日、聖フランシスコ・サレジオ修道会としての私たち自身の歴史的責任を思い起こさせます。サレジオ会はその創立の時から、常に宣教する会として意図されてきました。この第三千年期に、サレジオ会は若々しい宣教のリーダーシップを呼びかけるものとならなければなりません。

皆さん、ご復活おめでとうございます!

J Basanés
宣教顧問
ギジェルモ・バサニエス神父



ファチマ、全ヨーロッパSDB 管区宣教担当者・FMA 宣教促進コーディネーター研修会

3 月4日から
11日にか

けて、私たちはヨーロッパと中東のための研修会を開催しました。さまざまな学びのポイントの中でも、次のことを強調したいと思います：私たちはファチマで協同の働きを再発見しました。協同の働きは、特にヨーロッパで可能だということが裏付けられました。ここでは、FMA、SDB、ボランティアの間にすばらしい協同の働きがあります……協同の働きがいかにいかに可能であるかを見るのは感動的です！

まさにこの時、宣教促進について振り返るために私たちがファチマにいたということは、とても興味深いことです……第一次世界大戦の終わりに希望の言葉が発せられたのはファチマからでした。教皇ベネディクト十五世は「マクシムム・イルド」に、100年前のその時が「宣教の種を蒔く」のにすばらしい時であると書きました。ファチマのメッセージは、明らかに希望のメッセージ

です。私たちサレジオの宣教促進も同様に、教皇フランシスコの言う「第三次世界大戦によって打ち碎かれた世界」への、明確な希望あふれるメッセージになりますでしょうか。

私たちは、ヨーロッパもまた宣教地であることを今いちど学び、兄弟会員や姉妹会員にその確信を持ってもらうためにあらゆる努力をしたいと思います！このまなざしをもってヨーロッパのさまざまな現実を見るなら、考え方や行動のあり方を含むあらゆることが変わるでしょう。

私たちを待ち受ける旅路については、振り返りと祈りが非常に重要であると私たちは確信しています。この研修会の日々（ほかの大洲での研修会と同様に）、シスター・マリア・コーのレクツィオ・ディヴィナが私たちと共に歩んでくれました。シスター・マリア・コーは、とても優れた、鋭い、サレジオ的な仕方で、私たちの心にそのメッセージがそっと届くようにしてくれました。シスターは、あらゆることの出発点、宣教の熱意を汲むべき源泉を指し示してくれました。これは、私たちがそれぞれ家へと持ち帰った学びです。

最終日、私たちは各管区の統治と活性化への管区担当者とコーディネーターの貢献の根本的重要性について認識しました。私たちは、兄弟会員、姉妹会員の宣教を活きづけるよう呼ばれているのです。私たちは会員と共に、前進するための理にかなう道を見いださなければなりません。そのためには考察と祈りが必要です。力を無駄にしないために！宣教促進というテーマの下、この日々の振り返りが青少年司牧、養成、広報と多岐にわたったのは興味深いことでした。それは混乱していたからではなく、協同の働きが必要だからです。これこそが築き上げなければならない協同です。皆がそれぞれの管区で、どこにより大きな協同の可能性があるか、見ていくことになります。私たちは大いに現実的でありたいと思っています：より喜んで迎えてくれるところ、宣教の熱意の火が根づくことのできる土地で働き始めます。

戦略的に注意を向けるべき分野として、私たちは「家庭」、「移住・移動」、「サレジオの宣教ボランティア」を選びました。



ジです。私たちサレジオの宣教促進も同様に、教皇フランシスコの言う「第三次世界大戦によって打ち碎かれた世界」への、明確な希望あふれるメッセージになりますでしょうか。

私たちは、ヨーロッパもまた宣教地であることを今いちど学び、兄弟会員や姉妹会員にその確信を持ってもらうためにあらゆる努力をしたいと思います！このまなざしをもってヨーロッパのさまざまな現実を見るなら、考え方や行動のあり方を含むあらゆることが変わるでしょう。

私たちを待ち受ける旅路については、振り返りと祈りが非常に重要であると私たちは確信しています。この研修会の日々（ほかの大洲での研修会と同様に）、シスター・マリア・コーのレクツィオ・ディヴィナが私たちと共に歩んでくれました。シスター・マリア・コーは、とても優れた、鋭い、サレジオ的な仕方で、私たちの心にそのメッセージがそっと届くようにしてくれました。シスターは、あらゆることの出発点、宣教の熱意を汲むべき源泉を指し示してくれました。これは、私たちがそれぞれ家へと持ち帰った学びです。

最終日、私たちは各管区の統治と活性化への管区担当者とコーディネーターの貢献の根本的重要性について認識しました。私たちは、兄弟会員、姉妹会員の宣教を活きづけるよう呼ばれているのです。私たちは会員と共に、前進するための理にかなう道を見いださなければなりません。そのためには考察と祈りが必要です。力を無駄にしないために！宣教促進というテーマの下、この日々の振り返りが青少年司牧、養成、広報と多岐にわたったのは興味深いことでした。それは混乱していたからではなく、協同の働きが必要だからです。これこそが築き上げなければならない協同です。皆がそれぞれの管区で、どこにより大きな協同の可能性があるか、見ていくことになります。私たちは大いに現実的でありたいと思っています：より喜んで迎えてくれるところ、宣教の熱意の火が根づくことのできる土地で働き始めます。

戦略的に注意を向けるべき分野として、私たちは「家庭」、「移住・移動」、「サレジオの宣教ボランティア」を選びました。

*Happy
主のご復活
Easter!
おめでとう!*

「福音を告げる貧しい人々」



私はマリオ・ボルディニヨンと申します。70年前、イタリア北東部のヴェネトに生まれました。私はドン・ボスコが生まれたベッキにあるサレジオ会の職業専門学校に通いました。大工として、私たちは宣教資料館のメンテナンスを担当しました。資料館で紹介されているさまざまな人物やそこに保存されている品物は、思春期の私の想像力をかきたてました。宣教師になりたいという私の望みは、何人かのサレジオ会修道士のおかげで強まりました。その修道士たちは私の憧れ、模範で、中には宣教地へ旅立った人たちもいました。養成の後、25歳のとき、私はブラジルのマトグロッソに派遣されました。初めはクイアバ、コシボ、そして1980年にはボロロの人々のいるメルリで働きました。

ボロロの人々のためのミッションは1902年に始まりました。学校は長い

間、入植者の子どもたちも受け入れていました。私たちの学校が、100平方キロ以上に広がる広大な地域で唯一の学校だったからです。この入植者たちの存在は、ボロロの文化の実践を弱めました。

私の最初の仕事は、人々の現実を見ることでした。それは思春期のころに想像したこと、計画したこととはだいぶ違っていました。本や雑誌の中のインディアンは存在せず、その文化はほとんど消えかかっていました。初めにがっかりした後で、物事を観察したり人の話に耳を傾けたりしはじめました。財務と学校の運営のために働き、大地を守るために、美しい文化を救うために貢献しました。統合教育を導入しようと試みました。その少し前にボロロの土地を守ろうとして殺されたドン・ロドルフォや、ボロロの歴史や文化の専門家、ゴンザロ・オチヨア神父の模範からインスピレーションを受けました。

私にとっていちばん良かったことは、ボロロの長老に代父になってもらったことです。代父は、私が傍観者としてではなく、主体的にこの文化を生き理解できるよう、大いに助けてくれました。幸いなことに、昔からある宣教拠点からたった数キロのところに、伝統的な儀式をまだ実践している村がありました。代父は亡くなるまで私の先生でした。ボロロの文化の知識は、私の靈性、存在をとても豊かなものしてくれました。エルダー・カマラ大司教のこの言葉を実践的に理解することができました：「貧しい人々が私たちに福音を告げる」。私はサレジオ会員として、代父から学んだことを若者に伝えるように努めてきました。それはゆっくりでありながら、とても甘美な歩みでした。

儀式や美しい装飾が、しだいに戻ってきました；私たちはキリスト教典礼を文化の中に受肉させました；学校の生徒たちは、私の代父やオチヨア神父と一緒に制作した教科書を使うようになりました。ボロロの人々は、自分たちの文化的アイデンティティーに誇りをもつようになっていきました。ボロロ出身の教員の養成を始めました；現在、学校はボロロの人々に完全にゆだねられています。一学年が大学を卒業し、その後の学年も続いています。ボロロの土地を取り戻すため、2つの裁判が前進を見ています。私たちが始めた闘いですが、今はボロロの人々が担い、進めています。伝統的生活を営む村でも、変化は急激に進みます。グローバル化は、光と影をもたらします。今日、宣教活動はこれまで以上に大きな意味があります。しばしば先住民族にとって有害な、外来文化による多くの作用があるからです。宣教師が非常に強い理想を抱いているなら、他者のために神の愛をあらわす新たな場を求める力を、靈的な生き方は今も見いだすのです。

イタリア出身、ブラジル、ボロロの宣教師 マリオ・ボルディニヨン修士



サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエルルイジ・カメローニ神父

福者アウグストゥス・チャルトリスキー(1858 - 1893)。今年4月8日は福者の帰天125周年。チャルトリスキーは、神の計画を識別する効果的な方法を詳しく書きました。「万軍の主よ、あなたのいますところは、どれほど愛されていることでしょう！ 主の庭を慕って、わたしの魂は絶え入りそうです。命の神に向かって、わたしの身も心も叫びます。……あなたの庭で過ごす一日は千日にまさる恵みです。」彼は詩編のこの言葉をモットーとして選び、初ミサの記念カードに入れました。祈りのうちに、あらゆる根本的な疑問や困惑を神のみ前に置き、それから従順の精神のうちに靈的指導者の助言に従いました。



サレジオの高等教育機関、
学術機関のために

サレジオ会の宣教の意向

現代の社会的、経済的、人間論的挑戦を前にして、福音の道、
人としての道を理解し、指し示すことができますように。

今日、サレジオ会は、高等教育(IUS)の世界で意義ある存在になっています。したがって、責任あるキリスト教的ヒューマニズムへと新しい世代を教育する私たちの務めが、連帯のうちに、すべての人を受け入れるより開かれた社会を形作るものとして成長しますように。

